

ま  
え  
お  
き

でど去に太終思書て「いと村待にしいと始いアは  
あ暗来降陽ついき祖私いなはを勝てまいめうメ始か  
り記しりがてを送国は「る「抱手キすうてよりめれ  
ました立「羽はつに日帰こ自いにりのののうカてこ  
してもつま田せて帰本国と分て自スもで海なで海れ  
たしのただにないり人後「がい分ト「私外役「外二  
。まはとギ戻がる来と友次アたを信私は旅割英旅十  
っ「きらっらのっし人にメか重徒は大打り語行年  
てす「ギて七でたてべ愛りらねと「分でで研を前  
いで私ラま週すこ祖ル国カで合な内興あ参修いの  
たにのとい間がと国へ者へすわり村奮りりのたこ  
「何心照り余「をを宛に行。せし鑑いまま学しと  
次度のりまのそ感出てなくこてか三たしし生まに  
のもなつシアの謝でたる目の「のしたたたしな  
内読かけたメよし「第この本いの「まし。ちたり  
村んにて。リうま日一とはのろ「余し「私の。ま  
のでしい夏カなす本信「「ないそはたアに相行す  
こほきるの旅内「人で<sup>1</sup>まかろのい。メと談きが  
ととり空終行村<sup>2</sup>とはだずでな内かとりっ役先「  
ばんに港のをにとし「と人内期村に言カてとは私

うっで  
思かあ私  
いりるは  
をとこの  
新立との  
たっ、言  
にこ葉を  
したの思  
こと異教  
を、に起  
生国日  
き本  
て、自  
い分  
昨の  
日のだ  
のとい  
こと

きり外のある善わこあ謝大うりこ国よれ千はする通た宗いあとは  
伝通に必るきがのるす事し通と宣つら人「こ。すび教。るだ「日  
道し対要。き信社いべをてすな教てのは一と日こ受的多。けキ本  
師てしはあ伝仰会はき成こく師わ右わたは本とけ大数べがリ国信  
たりわはいてを維冷十あ得事はて「る倒ら信難のおが仰を者教道の持  
得れ独。他にすす「「。こな難リ来こ（左に業のい大をなを会的のきの  
たはにに伝べる嘲あとしの得わト援に篇倒りあ純る敢に及にこてを国  
であれ一し事許得「いいつてざ教助教「「万に者。音を事強なばに大持お  
る。け信はを企たのれ中年にら。をるはしはて、  
に仰を白つるではに「感はその事  
善守に

しまそててまとて読 をくえ呼はす教ただ ま鑑おしに何 鳴とな旅こよ  
 ていしういいすは教ま最果そてびあぎだだき先し三話て、かさすのる行がう  
 みうたいるま。な会れ近たの内たりまと内ま程たのし、話てる積も経まに  
 た内。うとし先いでてはしま村いませ思村し私。異申何実す、こ極の験し覚  
 い村きこ申て日とはい無たまととせんい鑑ては 教しかはよきとの自対通言て  
 とのよとし、もい内る教いご呼こん。定三、一 精あこいうよの自対通言て  
 考文うもまああう村と会と紹びろのそめの大内 神げのまにうで覚すしいお  
 え章は言しるる方のはの思介まででれてキ変村 一て関申とこきとるて方り  
 てを、った事尊も名言中いすす、で生りと研 といたをあ依ら喜、滅内なす  
 おでそてとに敬多はえでまるががき特きスま究 ういめげのび私と村り。  
 りきのいこつすい知なもすこ、長よ別てトど家 ことぐた集とも、のまそ  
 まる、るろいるのっい内。と内いうない教つ 奇つてとを思いの出としき  
 すだその、て教でてよ村 に村話のは話るをてな の思つてとを思いたとき  
 。けうかそ内会はいうが よのの内が一自おど 妙た内を思いの出としき  
 たいとの村のなて必ず っ文中村で先ののまご 題がのいこ出としき  
 くう驚人が知いもすず 私をす生る、わ信り。介 なるでそけ徒ス私いた  
 さこいはこ人か読しし のなの、責るであうでにトはた なるでそけ徒ス私いた  
 んとて内うととん、も 責るであうでにトはた なるでそけ徒ス私いた  
 引もお村言話存だまよ 任べあうでにトはた なるでそけ徒ス私いた  
 用一りはっしじこしく 任べあうでにトはた なるでそけ徒ス私いた

しにスし、がしそ満しと真内はるいごにとけこ呼性うよ非はかま生そ一厳て  
 てなト、異、よののて申理村最のた参、をたのん質一う常にい、て写通のなるこ  
 みろ教そ教きう二人、しのは晩をも考な、人へでな面にに、れ、をでだ統象ない、内  
 たい、すなう。のて村お心真の御の供べよあ教た精、にしであだ誰見あとりけもまりい  
 とと特るいほそ中なをりは理文存中しくうつ精わ神むはいあだ誰見あとりけもまりい  
 思存にとし私れ心く、ま二は章知にた内はた神けをし思、りけもまりい  
 いじそもはははに楯彼す。で形一方楯と自程思をあ私それやしとそてしのがで、あ、  
 ままのう、一異ののでをのそいあにつも円願身かう生りはうるかて言、い思、、あ、  
 すす、一異ののでをのそいあにつも円願身かう生りはうるかて言、い思、、あ、  
 。が正つ教一あ擬人こまてらあいの次語申で非す村うで心内まうあこる非常に多  
 、統の性つつすででこの議論を借り、あここの議論を借り、あここの議論を借り、  
 そ信中、といもこるら、あここの議論を借り、あここの議論を借り、あここの議論を借り、  
 う仰心といもこるら、あここの議論を借り、あここの議論を借り、あここの議論を借り、  
 い、はいま宜とがしう、あここの議論を借り、あここの議論を借り、あここの議論を借り、  
 うと当う申しがしう、あここの議論を借り、あここの議論を借り、あここの議論を借り、  
 もい然もしいでたよ、あここの議論を借り、あここの議論を借り、あここの議論を借り、  
 のう、のまのきなう、あここの議論を借り、あここの議論を借り、あここの議論を借り、  
 をこキをしでるら、あここの議論を借り、あここの議論を借り、あここの議論を借り、  
 擬とり擬たす、あここの議論を借り、あここの議論を借り、あここの議論を借り、

第一に、私は内村への異教性について、このこ げよ集の ます様点もその的あしては広につああ  
れ概とまてるさ信なす。とごそでつまげたいかく故いて村  
に 一 一に略にえおもれ仰お。とごそでつまげたいかく故いて村  
、 内村の異教性について、このこ げよ集の ます様点もその的あしては広につああ  
私内村の異教性について、このこ げよ集の ます様点もその的あしては広につああ  
村の異教性について、このこ げよ集の ます様点もその的あしては広につああ  
へ影ののの話を配たきまでし恩こ。とごそでつまげたいかく故いて村  
お響キ異へをお存のこ教あ引みご下はつあ、のよ権て激、は、  
ける ス評教異進いじく。とごそでつまげたいかく故いて村  
へト価性るいすい予版す。とごそでつまげたいかく故いて村  
異教性。とごそでつまげたいかく故いて村  
の止へ異教性。とごそでつまげたいかく故いて村  
いうこと。とごそでつまげたいかく故いて村

の激をは觀熱 章イ觀マ尊 まかの は村 神道を、外内村の宗教、異教性、  
恋甚彼彼の切彼 度ツをン敬彼 すど天余がその第一は自然觀 神道、外内村の宗教、異教性、  
愛のにのむはた ン紹介せ人メ、はも有天然を自然に對する考え方を、  
かをえ愛ろした ン述あカはし名なを自然に對する考え方を、  
ちもたに天た天 中すべりのときキドリと疑問に思うのであり  
得っ。報然。然を、ことす人、はつ、イ、天詩人、内村の異教性、  
たてワい愛深を、それは、天詩人、内村の異教性、  
の然トがあ。た非常に、内村の異教性、  
であら、心、に、た、に、女、秘、密、は、  
5 迫ト女え彼の愛した。 文ホ然トに

きい どれか危示とく  
こて次( 2 ) あてし険しいなこ  
とはに( 2 ) りは彼なてうりれ  
が文内( 2 ) まなはもいこては  
あ学村文 すらそのまと「内  
るにの学 °なこですを人村  
管全文観 いであ°よをが  
もく学 と踏つ彼く偶、  
な不観 自みたの知像天  
い案で ら止、天つ崇然  
の内あ にまと然て拝が  
でのり 言っ私にいに「  
す私ま いては対た誘ア  
がにす き、思す人うシ  
、申が か天うるでかタ  
彼し、 せ然の愛あもロ  
の上こ てにではる知テ  
異げれ いあす非これの  
教るに るこ°常となご  
性べつ のがしにをいと

ニ 拝ア殿すすしはててとあ  
33 のシとるべ°こ、義こ天  
罪タなのかギれ誘仕務が然  
参に口す足らリをううとるを  
照わテベ台ずシユ友るをべ愛  
)。れのかと°ヤダた霊忘かす  
6 らごらす天人ヤらたるらべ  
をとずべ然の人しらべずし  
導く°しはごのむしか°°  
かなお°、とごべむら天さ  
んりそ神こくとかべず然れ  
へてらをれにくらし°をど  
列、く祭をこにず°天愛も  
王偶はる神れ観°彼然し天  
紀像彼のにをず天をしをて然  
上崇、聖達愛べ然しし神に

然 教よなつ  
のし性う愛てこ  
愛かのかはいれ  
「し一°果るは  
と彼つこしと明  
題はにのて思ら  
すこ挙疑キわか  
るうげ問リざに  
短もるがスる内  
文言理、トを村  
でつ由私教得が  
すてでがのま彼  
°いすこ天せに  
る°の然ん託  
の言愛がし  
で葉で、て  
す°をあこ自  
「天 のまよを  
天 異しう語

わこつ語学全のしののをり 得つとも及度が浅だ批し とと日文あり村すたの  
れとたの者集でばよ著書まとなて、しも、田ろ判まかにが本学は私°こ一  
てのよ優の「すしう作かしこいい性むたそそタうししつ対で人だます文どとつ  
い中う美亀の°ばにをなよろのたにしこののケかたててすきはと、しそをが、表  
るにださ井編こ挑、一かうでで人かろとこ事と°の、亀るな、し彼てれはらばえれ  
とも「を俊集れ戦翻貫つか内すでか内はと情いたを内井批いの、は大いば申い  
私内7、介委に的訳すた°村°あわ村なにかつ何女ええは一でだ言うのい、人聞  
は村と意識がのいさで文けも文 か人どついで性ばて性郎あとうのい、人聞  
思の評識、ひてえ、体で若体 と間れたてあと私おのがり厳「よ、内間くあ面  
まかてに内と、あごははいは い性程°、れのはり深内まし大うなも「の源氏物語」を軟弱  
すなおね村り新るつ、なこど うに深私少、結、まみ村す°批学のをを讀、みん、そのすの、  
°文らじはでし、ご皆いろの るす性こくはにははが知倉 判「のをを讀、みん、そのすの、  
学れ伏「あい極つさよはよ るす性こくはにははが知倉 判「のをを讀、みん、そのすの、  
性ませ伝り岩めしんう美う を同対事も涯れ初果な百三 をそ出だの、  
がする統ア波てたよで文な を同対事も涯れ初果な百三 をそ出だの、  
よく、となり「質しごがのの ぎとるのにはにで婚そ彼比  
あこも日カ内なか存、文で るを理中はに言一す、うを較  
らの行本文村もも知そ章あ をも解に言一す、うを較

こねねい者に う性す入と評ついらてののでそる郷韓エ りすを人る生人なら  
 れじじう内文そか。はこあ間にもとかよを。とき代のソとせげにでのにで、学  
 ら伏伏人村学し。はこあ間にもとかよを。とき代のソとせげにでのにで、学  
 のせせはに者て。なとつ違引知いがう訪<sup>8</sup>しだ表ゆしえん内ておは文おの『を  
 文るる決魅がこ。い。がていいれう出なね西てと的えドば。村論いな学け自己余言  
 学『し了蝟の。ので、あたまのてこて郷、言日にを彼。そ評てい者る己は葉  
 者エとてさ集彼。かきそり内せでくともはそわ本い紹は。のし五でで彼表いにかよ  
 はネこそれしの。とるのま村んするは、大のれ人ま介西。人て人しあの激、にる  
 彼ルろれたた文。考とよせがが。ませ声へエたと批し郷。でいのよる激、にる  
 のギがだの理学。えいうん、、こでずをんピりす判て隆。ある代うこしあるし自己  
 許しあけですこ。すこ他そうれはに、けやして内れまを。とでの的。を感情『は  
 をにつですこ。がとのれいに、たたてさドい村てす論。いすが思はし移『代  
 離耐たは。あそ。が、は中はう感西たま中しはまもい。じ。つが思はし移『代  
 れえのなけりが。い、に激人激郷ずたのいこすまる西て。て、わ『は、代  
 てらでくれ、、か大自しでし神んま人人うがたし郷こ。過それ代いは、の  
 いれす、ど彼彼。がき己いあて話そをでい、批、はの。言のる表ると内村が  
 たいそれ内はと。でなを感つそ、待の呼、うそ判そそよ。で五日的と言村が  
 ので、と学。し文仮情たれのっ家び他もれさののう。は人本日言村が  
 で、と学。よ学託移こを一てかた人のはれ西征な。あは人本えが

がご情に突撫おむし繞な在いと。き水らべに。さらば万有神教はいかにと  
 ひとが足しおむし繞な在いと。き水らべに。さらば万有神教はいかにと  
 ときあるなみご母へ、、神その星おで、そのらば万有神教はいかにと  
 し理る。万。う。くそよのう低天いの力。輝く彼風におすべきにと  
 喜とう有神た。る、子い。に高。は。ない、す。の。ち。ろ。ん  
 でしな教詩万地。吾を手に、吾人を保  
 こテリに歌、神の上。に置いて愛  
 れの、理、が美術を供すと衝  
 をごスピあつてまる  
 受けきノ、性、のた  
 。と

うですて観論 どでれ (3) は  
 言、。いにで私めきに次) はない  
 つ、彼た対あはままつに) 神  
 て万は。しる私すしい内神  
 い有、そてとど。よて村観  
 ま神の内言も。うはの  
 す教に深村つ日。がた神  
 。、関さはて本、く観  
 即すに実よ人。次のんつ  
 一思驚深と神。一のい  
 汎想くい思観。つ文て  
 神、べ理い。は。を章考  
 論とき解まお。ごをえ  
 一いもとすし。紹挙て  
 にうの同がな。介げみ  
 つ論が情、べ。するま  
 い文あをこて。るこす  
 てのりも汎。にと。  
 こ中まつ神神。とがこ

ぶのとり発り情！	みうて の ( と	と	帰よ情嘆はな
こをの人間すぞ、私	ま言如こ罪こ4	告	し依うを声、る一
と感で間すく然、は	すつ何れ観の) 罪	白	かもかもとま万嚴
をずきのぬ手。こり	。てにはを「罪	る	も深。ついさ有正
教るぬ一段そと神の	い思英見空観	し	も彼いそてえに神冷
え。一つにのの友情に、	すかでみ「	も	もはとれいま異教酷
ら私つにのの友情に、	。すまと	満	こいはるし教になる
れはのよあで友情に、	石とがすは	わ	のう、人よか行る
たそ心つるもぬ、もい	兵う「の問	た	あこそはうらき唯
。れ靈のもの、もい	永文私 題	す	ととれま。のた一
を的の取はあつか	生のキで	。	でにだずそ回く神
罪病り、るてな	のなりが	る	ほけなし心思教
『で去いもする	訳かスが、	空	な一のクのこ去
とあるかのら友	ででト、	教	り神でりみとつ
よるこなを取	読彼に次	虚	ま教はスががて
	んは就に	が	せになチ発あ寛
	でこき彼	も	ん対イヤしる容
		あ	。すでンう「温
		つ	るしのると柔

文	るの「あこ自をたはうがも心かはつに味	れ	的	に	る	を	在	試	な	が	り	て
で	そので、つま分ものもいあつ理つなくちでこ	た	ま	対	事	自	す	み	事	た	私	い
す	しでき「たでのつでつうるて学たい程多新れ	た	し	実	由	る	る	実	い	の	る	が
が	てすぬ神。知中てすと認で癒的かか度くしは	の	た	し	実	由	る	る	実	い	の	る
、	、。、の彼つにし。深識しすなも。ののい非	の	た	し	実	由	る	る	実	い	の	る
こ	こあ友はてあてそいをよこ事し内もクと常	の	た	し	実	由	る	る	実	い	の	る
う	れる情自いるもれ何内うと柄れ村のり言に	の	た	し	実	由	る	る	実	い	の	る
も	はものを分た恐、はか村ががでまはをスえ現	の	た	し	実	由	る	る	実	い	の	る
言	「のものを人るな万では、ではせ難「チる代	の	た	し	実	由	る	る	実	い	の	る
っ	罪「っ中がべお有あ明罪きなんし罪ヤ罪的	の	た	し	実	由	る	る	実	い	の	る
て	のがてに始きう神る確そるい。い「ン観意	の	た	し	実	由	る	る	実	い	の	る
い	処あすそめ「め教こにのも、し学とがだ味	の	た	し	実	由	る	る	実	い	の	る
ま	分るらうて空るにとももの力か問混心とを	の	た	し	実	由	る	る	実	い	の	る
す	「の取い持虚こ対をつのはウしの同理思も	の	た	し	実	由	る	る	実	い	の	る
。と	だりうち「とす彼てで罪ン罪理し学いつ	の	た	し	実	由	る	る	実	い	の	る
い	との「得でのるはいはとセと論て的また	の	た	し	実	由	る	る	実	い	の	る
う	いぞあたあで深知たな深りはをいにす、	の	た	し	実	由	る	る	実	い	の	る
別	つくる罪るきいつ。いいン単知る説。そ	の	た	し	実	由	る	る	実	い	の	る
の	てこも観。な同て罪。関グならの明この	の	た	し	実	由	る	る	実	い	の	る
短	いとのでそい情いとこ係をるなでがん意	の	た	し	実	由	る	る	実	い	の	る

こわをだるこ  
 とれ見け。こ私  
 のるつれ私には  
 恐のめどたこ始  
 ろでてもちれめ  
 しすし、はだて  
 さ。ま罪実けこ  
 ましいをは深れ  
 でかま認罪くを  
 知しすめを罪読  
 っ内。て認をん  
 て村人もめ知だ  
 いは間、る時  
 た、的ここて感  
 。罪なんとも動  
 そを誘どもし  
 れ見惑は難ま  
 ほつにそしが  
 どめとのい  
 深るら罪の

るキ下の見化留 わ罪キたっ見し るか救る罪留そさ罪さ  
 なりに蜜てせめキれとリまてつか罪べらい者をめの、をれ罪  
 りス罪と、ららリらしスえわめしはかずを少見ず捕る見どは  
 。トを化罪れれスのてトリれぎてこら。得なつしうあ留もこ  
 11の満しはた、ト心存のへらる直れず死しかめてるため、れ  
 十足てそり罰のにせ十コのべちをへにむらてそとわずこを  
 字にわの。せ十臨ず字口罪かに見コ至るず、のこずしれ見  
 架処れ苦わら字むし架サをらキ留リらの。そ中ろ。てを留  
 の分らきれれ架。てをイそずリめンし悔悔のにとこ、見め  
 ごすををら、、見書の。スざトむ改改殺死なれ人つざ  
 とる喜脱、ゆ罪 恩つ、十彼トる後るめめすするをはむる  
 きもばしこるは 恵め、字はのべ書のなはとる。見こべべ  
 はのすてれさそ とて、架く十か、悔ら悔こ者罪つれかか  
 あに。、をれこ 化、にぎ字ら、改ざいろ多をめをら  
 らし天恩仰、に し罪 つを架ず、めるなとし。見て、脱へ。  
 ぎてが恵ぎ恩見 ては けもを。なべきな

うま氏て思つが彼かひ すおい、原 をま (5) 違が十をか村しい間そすらく  
 なすはいいづ、のぶと先る話ま皆理こ考せ最 5) い日字見らはまやでのが、罪  
 、。つるまけ彼評人り程だすすさ・のえん後 ) 母 あり自をめそれといれが幸を知  
 厳内ね人すてが価に内私ける。ん母ごてがに 性 まら見る彼をい。ば誠い認っ  
 し村づだ。い日に遠村はでの私こ性ろみ、、性 せにつこはようそあ実にめて  
 いはねとまる本つ藤の亀あで自の原深た内い村さ理 ん言めと、く、しるでしるい  
 宗キ内、た作人い周こ井りは身言理層い村にさ 度。いよを罪知まてほあてこた  
 派リ村私そ家のて作と勝まなは葉、心とにさ 奇 かとめ認てにの、、のも人  
 とスをはのでキはあ考郎。、うよい学いけ奇 異 せいてめい人泥そそこな間  
 て教うつでるスはありえを たいくうなまる異 母に てう、たた間沼ののとかは  
 日を言て価と教く。きま のと知がし 原わ 思 の直な人のの罪人をな傲  
 本人に批す。発違いをなを考 用をで言ば 理れ いたでちらで悲中をが教か慢  
 紹介した、より藤けとえ の浮う りて思で性 とれ と。キ、りが深つにらきあ  
 りて思で性 とれ と。キ、りが深つにらきあ られスぐする陥てしていま  
 られスぐする陥てしていま るはトに。つしむものす  
 に彼の罪だ内てま人、でか

ながとのなつ立丘  
か選美苦がてつに夜  
つんし勞らきて、お  
ただいの叫まい杉そ  
理美こしんする垣く  
想人とのだた。にわ  
のたかば。よ。一。困が  
美ち！れや。一。おま家  
をのデるせと母れに  
、中ラ母た、さて着  
いにウの体私ん、い  
まもエ姿には、父た  
わ見アの、門息の。  
が出の、そを子小小  
母し友なの開が屋高  
の得人ん後け帰がい

かて「知て内を内る氏いう鑑しとりし中恐偉うそ  
ら、余ら平村そ使村人は、論三「果は、てでら確いもれ  
帰こはれ和がのつが間「こ文に甘し議そい、くかけのに  
つういたなそ第て次形余うのおえて論のま文はにどだよ  
て言か事母の一いの成はい中けのその信す字彼内、とつ  
きつに実子母はるよをいうでる構れ余仰。通の村困いて  
たてしで関親もこう論か面、人造だ地も彼り代はるう日  
といてあ係とちとなじに白臨間「けが思の、表、。誤本  
きま「りでうろを女てしい臨床形のでな想性男的、」解人  
のすのまはまん指性いて観心成著あいも格性論怒とをに  
話。中すなく、摘のる「察理のキ土まこめ自キとのえリ  
でこでがかい母しシのををのキ居しろてらリ言神たス  
すれは、つか親てンで用しおス健よで男嚴スつ聖。ト  
。は母彼たな「いボすいて医者ト郎うし性父トて「教内と  
彼親はこかであるルがてい教氏かよ的の教よ<sup>12</sup>内と  
がを少とつあの、、内まさん「は。うでそ「いと村は先そ  
ア理なはたりで女そ村すん「。あれを論い生う  
メ想く、、ます。表。中お土し  
リ化とよ決す。象でけ居い村かこあ張の、はい

最  
後に、  
これ  
は非  
常に  
注意  
すべ  
きこ  
とと  
私

し生と母  
い涯をを  
もが、、  
の彼深こ私  
であの感に、  
ら名謝も孝  
ん声すう養  
ことる一を  
と榮。人つ  
を光願加く  
！とわえす  
<sup>16</sup>にくらべ  
ふばれき  
さわたわ  
わがこが

とがで  
呼、も三  
ん内一。番  
で村ア目  
いはルは  
ま彼マ母  
すの・校  
。母マで  
校。ア  
アタリ  
マ。ま  
スへす  
ト母が  
大校、  
学。も  
をとち  
「申ろ  
わしん  
がま英  
母」す語

行ね一だ一峰しじ外国く母  
くる度。一のてめ国のさ、  
。水敬一。同頂数た船岸ず  
<sup>15</sup>平意愛、を時。上をに  
線をす甲望間。の離おそく  
のさる板み揺さ人れくのも  
かさ、へ見ららと、べ母気  
なげ愛。るればな外きに高  
たよすとのた祖つ国かそく  
にうるわみこ国た人。の、  
彼。祖れとろよ。のや子か  
女。国わなに、船乗がらく  
は大へれつは。はりてがも  
沈波、はたた動組私孝優  
んのも叫。だかきんはをし  
でううん秀くはだ祖つい

す遠ま象  
。ざすを次  
かが使にた神  
り、つ内。聖  
ゆこて村<sup>14</sup>な  
くれ描は姿  
祖はい自の  
国彼て分中  
へのいの私  
の船ま祖は改  
思です国め  
い日。を同  
を本時じ  
つを間よ  
づ出的う  
つてにう  
たいはに  
もく前女  
のと後性  
できし表



明私す国 私へで靈がるにいが聖  
 らにる、こは異いを、神なまな靈土  
 かは内神の考教る男今「つすいに居  
 に思村のよえ性と性かとて。と母氏  
 母わの靈うまゝいであら訊、このは  
 のれ感まにすのうは九し「のっ表少  
 愛ま情で母。発のな十直天ごて象な  
 にすはもは現はく年すのろいをく  
 欠。、女当しめ性の書なこそても  
 乏内き性然ててと昔がるそ。た西  
 し村わ表として注目異て当る「エ分をの  
 てはめ象をも、すな、時に代「ニうだ学  
 いた理日も、母校、祖  
 人学的て呼ぼ、  
 でのにみあうと  
 ばと

開にしうへり大  
 け初いしマを学  
 るめ靈てマ残丘  
 のてと、しし「学  
 で私たわ「てカ校  
 あのだがの、レは  
 っ楽二母も学ッや  
 た園人、と生ジが  
 。へのみなとみヒ夏  
 17パみわ帰ナル休  
 ラとなち省お「み  
 ダイっ神し母にに  
 スたのたさ私入  
 「とや。んひり  
 はきさこ と、

と慰しがアめのとは  
 いめた、マてで女思  
 うる寮学ス気が。表  
 のに校トが大つこ象  
 でのとが夏学いれで  
 すはり夏休のたは呼  
 。「残休日こ私ん、  
 わさみ日々とはで土  
 がれに々をで土居氏  
 母て入を述す。氏こ  
 「しり内べ。氏こと  
 ない村てご紹介ら  
 神まはい紹介教指  
 のすひる介教え摘  
 靈。ととすえらし  
 でそりこる一れてい  
 あ森閑で節て「母  
 っ彼をとすは始

と、モざ公ゆ乾ぬ生空びこんあ乾ア必あと空満、そに設い  
 こスる道る燥衰じ気まろのる燥ト要るも気た常のはせか  
 れ書川をせ退、はんで状。せモなが必よすに内種んに  
 がのこの水るにそし「あ態湿るフもとな始と燥最の。て  
 教「とご空おれめをるで潤気フのくるまでもあるた  
 会「を「にく預るめ、すし。空は「ま、の。る空いせつなること  
 して流に、者で取敗な情会と義あ乾魂乾体腐をも達魂の  
 健全に発達せよ「アモスのこのつる会うん遇し圏最  
 せ

にこまに居士そめ  
 与れせし非氏居れに  
 えはんか常の氏が母  
 た教。しに用のこに  
 言会そ、敏語指れ対  
 葉堂のこ感で摘らす  
 のの内こであえ、女強  
 一落村がもつば私性い  
 部成が内た、は表あ  
 でを次内と内正象こ  
 す祝の村しにが  
 。しよはい村しに  
 てうそうはいあれ  
 、にれこ「とらを  
 あ言だと甘思わ抱  
 るうけです「またて  
 青のすとい  
 年では。のすとい  
 牧すあ感。すた  
 師。り情土る、

内村の異教評価

のう「願方」をでか空い性  
あ言乾いで母「」を気つ表日  
る葉燥つ常「言乾よ」て象本  
表はせづにへ葉燥くがよをを  
現「るけ」のをせ知教いもお  
だい空て乾あ尽るつ会でっお  
とか気い燥こく空てにしてう  
感に「たせがし気い」よ表空  
嘆もととるれて「たあうわ気  
せ内かい気を説乾「る。さは  
ざ村「う圏抱い燥だい内れ湿  
るらか。「きてせかは村る潤  
をしわそについるら国は「で  
得いいれ呼づる気こにそ気あ  
ま「たに吸けの圏そ何の圏る  
せ端るしすたで「内を「」。  
ん的人てる人すの村も湿でそ  
。「で「もこが。必はた潤あれ  
含と「と「終要こらせるは  
蓄い「を一生性こすると女

巒でらつ不人実ともをと最教国 の教公し  
峰あうた信でをと見とも会はしで会義む  
「る。る者あもなら逃な好は情かあもをる  
ら。彼人なる排えわすえま情実しるたも必  
ん彼らるる。しらる人らる実国「。ちつ要  
ぼらの愛と日てれるでれるのでか までの  
うは理しを本勇て人あて人巢あく ちあ状  
「ア想て問人敢「はる「は窟るは にふ態  
にルは「わはに正「。明「で。言 しれで  
堪プ寝乾ずそこ道「こ白「あしう てずあ  
えスたい「のれは無れなやるたも 滅しる  
得のるた全信をい慈にるさ。がの びて。  
な峻姿るて者実か悲反不しこつ の て「乾  
い厳の人「な行なのし義いので「 し国燥  
。な東をしるする人て背人国そ日 ま家せ  
18る山きめとる情「最徳「での本 うもる

皆さん、私どもがクリスチャンとして生き

よてりあて私完得てはる あとととを  
う冒こるいは全な「、こなるをししわ  
な険え。な考なかい人とぜ。、ててが  
私希をてそいえ段つか類にな 一、で特私  
望試「れ異なる階たなのはら 再こは権は  
でみよは教。まほる発幾ば なのなとむ  
があより「国までど形達多、 ら世く見し  
クリ。と高てにキ達「キ上利教 神生一し異  
19すなのはりしよりの益徒 にを人「教  
る人先永ス得りスーがと 感与のク徒  
ヤン 青生人遠トる高ト段あし 謝え「リで  
とし の向道希にの「もで。生 たれ教チる  
持かを望接だよ達あ異ま のた徒ヤこ  
つつのがしとりしつ教れ でこ「ンと

中最いをも て的でしそべ  
で終ま示のそいともてれきこ  
言章すすをこたいそそをもれ  
わ「。言意でようれれ大のま  
れキそ葉識こうよをを切をで  
たりのを的のにり持棄にい内  
次ス第二に項見「ちてしく村  
のト一「、でえむつよ「つの  
文教は三積はましづうクか中  
章国「ご極「するけとり見に  
での「紹的内。無てはスてあ  
す正余介に村 意いしチまる  
。味はし評が 識つなヤいへ  
のいて価へ のたかンり異  
印かおし異 う。つにま教  
象にきて教 ちそたなし性  
「したい「 になはどて。と  
をていると さ意こも彼言  
語「とこい れ識ま決はう  
るの思とう

はる。民ぞりる思国年神れの派のべず  
 、性れスこ想民のとらでなでてだわ  
 何の本こ国教をよが練界自け々る善い国  
 祝もと民の、っ、にとのれもないう民  
 福またごにう神てアよに賜ばまら賜考の  
 とたと与るは根メっ仕物なたば物え上  
 奨神くえわ望こりてえとら天、はにに  
 励のきたしみそカ勝ね恩ぬかわ神強神  
 と国よまさたぎやちば恵。らがかくの  
 に民めいはいま置ヨ得なとわ与国ら打撰  
 満で得し、わきしたらをれえ民与た理  
 ちある点自がいえッれ。っはれ中らたあ  
 思想にあ国れキれの千、わも立るすは

なてしでせト 言、のの国私りにいる  
 言実ま、ん教こう異言で以どまもにと  
 葉はし総。国のの教葉は外もせうなき  
 がそた理内によで国はあにのん生つに  
 見の。シ村失うあ民どりな生かきた、  
 ら年一、は望なりにんまいき。てここ  
 れの八リアし異まはなせこるしいとの  
 ま十八、メた教す永にんと国かたは国  
 す二六のり結評。遠大かを、しくあを  
 。月年導カ果価 のき。知私、なり棄  
 五春き留生は 希なそっどたいまで  
 日のに学れ、 望慰のてもととせて  
 のこよ中たし がめと、のえ思んし  
 日とっ、もか あでき私愛そわかま  
 記でてアのし るあにどすうれ。い  
 にし回マで彼、る、もる思るこた  
 次た心スはが、こは国つこのい  
 の。をトあキ ととの皆はてと異と  
 よそ経大りり 彼か内悩こもは教お  
 うし験学ます は。村むの、あ国思

るなしでを肉るる穂実そろら生ス  
 。さきあ通体。以上でをのはなまト事  
 21 くれ人が。てやが実を結ぶのたいれ信実  
 て最も善き実を結ぶとき実を結ぶの信者あと  
 最も善き実を結ぶの信者あと  
 肉通に彼が実を結ぶとき実を結ぶの信者あと  
 穂以上でをのはなまト事  
 実結ぶのたいれ信実  
 そろはの良その否は強健。のいと  
 らはたいそあの性とし  
 生なれできたのるの性とし  
 生なれできたのるの性とし  
 穂以上でをのはなまト事  
 実結ぶのたいれ信実  
 そろはの良その否は強健。のいと  
 らはたいそあの性とし  
 生なれできたのるの性とし  
 生なれできたのるの性とし

う化な木はご節 励し年想しえ  
 ににらさ、存をもでたに「たに内  
 言求ばれ福知読うは。わに。、村 で  
 つめ日る音のみ一あ私た支そ、は は  
 てら本、と方まつりどっえし日そ はない  
 いれとそいもす、まもてらて本の ないか  
 まるいこのう多。接せに福れこも福 。  
 すこう台接いこぎんと音てのま音 20  
 。とこ木ぎとれ木かつの、、た的  
 はのの木思もの。てたこ祝神キ  
 何異ほをい有理 もめの福のリ  
 か教うすま名、何に異と国ス  
 に国、るすなと 孤教奨民ト  
 つ、すに。もい 大軍国励で教  
 いこなあこのう き奮日とあへ  
 てのわたので論 な闘本にるの  
 、異ちつ中す文 祝しで満、回  
 次教私てでかか 福た、ちと心  
 ののど接彼らら との四た確の  
 よ文もぎ、一 奨で十思信ゆ





し反るゝは由れは出るにのしでありし要し  
 て抗。制なのな外現。よであるてでな制  
 わすゆ度いない界に造つあそる。二あが度  
 れべえはのいのののあ化てるの。し者るらと  
 をかに神でよで機るの絶。大人かは。ゝ生  
 殺ら敬のあうあ械。目え生矛世し衝生こ命  
 さざう定るにる力。的ず命盾はて突命のと  
 するべめ。制。の。は進はの大人をも世は  
 めもきたこ度圧圧しゝ歩機底矛世ま必に両  
 てのもまのの制迫か完発械に盾とぬ要お立  
 わでのい意なのなし全達力大ではかでいし  
 があでし味いなしてなすの調あかれあてな  
 生るあもか所にこるる圧和るかなる制い  
 命。るのらに所はの生の迫が。るい。度。  
 を彼。で見生に得生命で対あしものしもし  
 完を。あて命自ら命のあ抗るかのてか必か

て論彼て  
 い文の三もこ  
 まで文番宜こ  
 すす章目しで  
 。がではいゝ  
 、す私で神  
 そ。がしゝ  
 のそゝよと  
 結れ社うい  
 語は会。う  
 とゝ学。の  
 し制的は  
 て度無。ゝ  
 内と教。霊  
 村生会。ゝ  
 は命論と  
 こゝゝ読  
 うととみ  
 言い呼か  
 っうぶえ

であ会れきそ同な  
 ある主ゝんし視が  
 る。義こがてせら  
 。貴はれた形ら神  
 24むかをめぐるゝ  
 べか捨に神るし  
 きるて形を時ん  
 、場ざに圧にゝ  
 な合るそす弊と  
 くにをむる害形  
 て起えき時はゝ  
 なこなゝに百け  
 らるいこゝ出い  
 ぬ主。れ神すゝ  
 主義無とはると  
 義で教離生。が

凡な聖む壊う  
 々く職し的とこ  
 たゝとろなここ  
 る俗。なる彼ころで  
 、が。言をだど  
 小聖、い言けも  
 さ化あ。たつ注が  
 なする。いて目、  
 、るいこいしゝ  
 何ゝは。とるま聖  
 事こゝはよす職  
 もとゝうと制  
 なで聖。うと度  
 いあがすにゝ  
 よる俗べ思内の  
 う。化てえ村撤  
 なこすのまは廢  
 毎のる信す何ゝ  
 日平の者がかと  
 の々でが、破い

でれの特。もなすが族らしては  
 あら信別聖のきる俗となて往ゝ聖  
 るは者の職がにこ化ない平々階俗  
 。こが職と伝至とする。民見級差  
 26の聖級称道るでる事平とる差別  
 理職がし事こあ事で民なが別の  
 想と撤て業とるでながるごの撤  
 にな廢神とで。はく向こと撤廢  
 向るせになあ聖なて上とき廢で  
 か事ら仕るるないはしでゝのあ  
 っでれうこ。ら。なてあ貴場る  
 てあてると人ざ俗らすっ族合。  
 進るすたで生るがぬべてがにそ  
 む。べめあそも聖。ては下おの  
 のわてのるのの化聖貴な落い事

すの論。ののに  
 。中ゝ最一無はこ  
 以のと後つ教整の。る成  
 下。でにだ会合議。ゝ  
 は聖もごとのし論。25ま  
 そ俗呼紹思考ては。つ  
 の差ぶ介つえおそ。と  
 さ別べして方りれ。う  
 いのきたおをまこ。ゝ  
 ご撤論いり非せそ。す  
 の廢文のま常ん。ゝ  
 一。ではすに。大  
 節とゝ。よし矛  
 で題ぜ非くか盾。の  
 すさカ宗表し。で  
 。れリ教わ私。あ  
 たヤ的しはゝ  
 も書無たゝ論  
 の注教も内理  
 で解会。の村的

内村における異教性の止揚

生も活その業のことがなる私どもだの札言のありす、私ども  
 はんあな優りし道に聞かれ慰められたる、この、なる私どもだの札言のありす、私ども  
 もは平信徒はを慰められたる、この、なる私どもだの札言のありす、私ども  
 存は、か、こう、宗見なら放る、この、なる私どもだの札言のありす、私ども  
 へに、は、な、は、宗見なら放る、この、なる私どもだの札言のありす、私ども  
 め、自共、す、謙、も、含、め、て、相、対、化、の、信、仰、絶、と、地、上、格  
 え、も、の、で、あ、る、と、思、い、ま、す、の、仰、絶、と、地、上、格  
 内村は、非常、に、狭、く、い、ま、す、の、見、え、る、の、す  
 が、実、は、広、ま、し、や、か、な、く、見、え、る、の、す  
 持、つ、て、い、ま、し、や、か、な、く、見、え、る、の、す  
 狭、い、世、界、に、決、ま、り、な、い、と、思、い、ま、す、の、見、え、る、の、す  
 知、る、に、い、は、し、や、か、な、く、見、え、る、の、す  
 ま、で、こ、の、心、を、開、く、と、思、い、ま、す、の、見、え、る、の、す  
 教、育、の、た、つ、と、知、る、に、い、は、し、や、か、な、く、見、え、る、の、す  
 徒、ら、の、心、を、開、く、と、思、い、ま、す、の、見、え、る、の、す  
 で、あ、る、を、開、く、と、思、い、ま、す、の、見、え、る、の、す  
 教、育、の、た、つ、と、知、る、に、い、は、し、や、か、な、く、見、え、る、の、す  
 様、子、の、た、つ、と、知、る、に、い、は、し、や、か、な、く、見、え、る、の、す  
 陥、た、つ、と、知、る、に、い、は、し、や、か、な、く、見、え、る、の、す  
 人、の、た、つ、と、知、る、に、い、は、し、や、か、な、く、見、え、る、の、す  
 は、あ、る、を、開、く、と、思、い、ま、す、の、見、え、る、の、す

トキソは的てるるるンいとる彼個のトン占はて本チト  
 リシドク存まパのた。に。は。の。日。教。と。は。キ。簡。的。キ。ン。信。個  
 ステイリシでウであるこのつ本の人的スであるこの。教。、。キ。人  
 チノツスタへ口あると反て人的クチャるでにまの。教。、。キ。人  
 ヤツ的チ。ブはる。に。対。日。は。ク。リ。ス。ン。も。よ。た。全。日。で。彼。、。キ。人  
 でスリンボ人その。に。対。日。は。ク。リ。ス。ン。も。よ。た。全。日。で。彼。、。キ。人  
 あはスでナのの。に。対。日。は。ク。リ。ス。ン。も。よ。た。全。日。で。彼。、。キ。人  
 つスチあ口中生キてかたスチャあかいてれを的るキはに  
 。ツンたらへのス層はこン。てかしく物リコスとト的に  
 彼トで、は。ブ。終。ト。日。ク。と。ン。の。そ。か。れ。は。キ。ス。し。チ。は。教。ク。キ  
 らラあイル人りに徒にチめるな  
 はンつ。タ。人。に。徒。に。チ。め。る。な  
 無ドたテリとに徒にチめるな  
 性的、ルヤし至ななヤなこ

一先  
 文生ま（  
 ののず（  
 一訳こ）  
 節でれ  
 日本  
 英  
 本文への  
 的であ  
 キあり（  
 愛  
 国  
 心）  
 とこ  
 題れ  
 さも  
 れ石  
 た原

た三てし  
 いつきた内  
 ののたか村  
 思面わ。が  
 いかけこい  
 まらでれか  
 すいすにに  
 。くがつし  
 つ、いて  
 かまて自  
 のとはら  
 文め、の  
 章の実、  
 を意は異  
 ご味す教  
 紹でで性  
 介、に、  
 しこおを  
 てこ話止  
 みにし揚





いしし多引  
 まてかくかこ  
 のいしのれれ  
 日る私人るは  
 記こはがのし  
 のと同よでば  
 十にじくあし  
 日注時知りば  
 後意につま彼  
 、せ彼てすの  
 二ざがいが正  
 十る次る、統  
 三をの言そ信  
 日得よ葉し仰  
 のなうなてを  
 日記の言でのう  
 でで葉すため  
 。。残、にに

てトがばにり  
 、の平、も、  
 他十和そしひ久  
 に字、れ、とし  
 何架歛はわりぶ  
 がに喜十が、り  
 無お、字福心に  
 くい希架音のて  
 とて望の、内十  
 もあは福なで字  
 よるす音る喜架  
 い。べでもんの  
 。こてあのだ信  
<sup>31</sup>れキるが。仰  
 あり。あ自に  
 りスわれ分帰

十 葉 ( 3 )  
 月 第 を さ  
 十 一 二 い )  
 一 は 、 ご イ  
 日 、 三 に エ  
 の 彼 挙 、 ス  
 日 の げ 彼 へ  
 記 永 て の の  
 で 眠 お イ 絶  
 す の き エ 対  
 。 年 た ス 的  
 の い へ 愛  
 前 と の  
 年 思 深  
 、 い い  
 一 ま 愛  
 九 す を  
 二 。 示  
 九 年 言

で。わももわらはを  
 ああれつつれぬ、排  
 るたにててた。絶斥  
 。かとこ充り他對せ  
<sup>30</sup>もりれちで、的よ  
 一、を足あひ宗と  
 夫比補れると教言  
 一較うる。のう  
 婦以の者わは特に  
 の外要でれ他質あ  
 規のなあはたりあ  
 定もしるわりあ  
 のの。が、ら  
 ごでこ他宗わね  
 とあれ宗教ればな  
 するはををはな  
 寛容

読かも 的ア葉にすでとにしなは  
 む月うさなンもかもあす書かい言こ  
 こ前かい言と内えのりるきし。つの  
 との、ご葉し村りとまや残内むて言  
 に言ともての、しし、し村しい葉  
 い葉い、間死真ひてよそてはろまは  
 たでうキ違ぬ情と多うのい確、す、  
 しす、りののでりく。言るか異がも  
 まがコスなかあ心のこやのに端、ち  
 す、れトくもれの人れ善でこ、決ろ  
 。そまは内しば中がこしすうでしん  
 のた何村れ、で読そで。いはて、  
 文彼ゆのな、喜む彼、人うな、イ  
 章がえ真いヒん、のこの言い正エ  
 の死に情、ユだ十正れま葉で統ス  
 結ぬ私なと、字統はさをし信に  
 論ほをのいマと架信彼の死死う、  
 だん愛でうニいの仰の死死う、  
 けのしす異テう信を本なぬか、  
 を数た。端リ言仰示心ん前。はと

れ(イのとスいてて者呼大しよす人ス  
 な人エみ、ト。、謙、ばのなり、ト  
 い道スが、い教人わ遜でれ努り、時偽教  
 。教に慕わにキの心へ方もあ彼全たの不  
<sup>32</sup>信者)ヒユと、信にをだ。しなこエ唯跋ヒ  
 としてマニテリヤン、ザレが、の、柔、和、信、者、  
 死ぬのかもし、イエだス、り、より、し、信、者、と、最、少、た、悪

たをすことよず	一	れこいすこに	
人誇内	。としかにまむ結	はこ。るに、	
でり村	でたつへず論	私に彼の内人学	者愛るはででトト、まこ仰生
あとと	すのた異、びと	の流ので村の校	でせもなああにを心すのを徒こ
るしい	がはか教こ、い	勝露場すの信の	あらのいるつ対思情か事たのと
。、う	、、も精のにう	手し合。へ仰試	るるで。てすうの、をめ学に
へ終人	内す知神題入ほむ	なて、こ異を験	。るあキキ、るか事と信し力わ
異始は	村でれ、をるど	思いそれ教た官	<sup>33</sup> 者るリリ起情、で。じてをれ
教異自	のにまとなこのす	いるのは精めが	で。ススこ愛そあ信まはたら
性教分	次くせしぜとも	こよへ正神し生	、そトトラののる仰すなめは
、的が	のりんた内のにび	みう異統、て徒	真のを教な起事。はからす、
と性異	点返がか村いで	でに教教のはの	へ人少をいこでい頭、ぬよ学
で格教	にし、。のたは	あ思性信頂な学	まがし理もつあか脳か。う校
もを国	注申あへ、しあ	りう、者点ら力	こキな解のたるほのの、にの
呼保に	目しえ異異まり	まのがのをぬを	とりりしが者。ど事事あ、試
ぶ持生	しあて教教すま	しで最言み、た	、スとた不がキキでをな人験
べしれ	たげ、性性。せ	よすも葉る。め	のト愛者信信リリな信たの官
きてた	かて精、、ん	うが美で思私す	信にすで者者ススいじは信が
も生こ	らき神でとが	か、しはいはよ	
のきと	でた、もせ、	。こくながこう	

本そしし	界るが楽んい	る激そ希つたいに	る章	よ呼びそ、へ氏のてそすを
当のぼた	そがよ、を	でう内とし、望た。ま	プ、の内う	ばよれね異の栄厳れ。大
の福福	よのあう	バ聞、の村思くそが。そ	す口と中村になう	をじ教言光しをそ切
意音音	う内るに	ックこがのう闘れあその。テ	宣では思けに私伏性葉のく	キれに
味をは	に村よ、ハ	よのあ英のつをるれ闘 <sup>34</sup>	ス言、、つれ思はせ、でた	批りにし
の明狭	楯のう私に	う書り文でた心とがい	トし、プたばつ、よを	申め判スも、
寛確隘	円信なはあ	でをま著あ。のま余の彼へ、	余口か、た異う大しに	シトかそ
やにな	の仰気内の	あ読す作りそ中	では反そはテらその教と	切ま用、へかれ
かすも	世のが村素	つむ。のまこにいにに最	対のプスでので性しに	すい断のわを
さるの	界世いに	晴たはあ一すに大うも、	後、こロタあ事す、て	しなて罪傾ら高
、こだ	で界たもら	、るつ。内切貴崇異	ますとテ	ンリ実。といならいし倒
優とと	あはし彼	しとあドに	村にい高教	でるのスト
しが	いり、ま	のい評たい	、のしもで性自、意	タ主す気異
さ却つ	ま冒す、	しかツ	すなの、、分こ味	ン義。持教呼
をって	す頭。つ	つたも人	ばがでそととは	ト、が精ぶ
生てい	。に	ののとバ	がらあこの闘	だ、主と
んそま	彼も	堅世い	ッこ	し、るに闘
でこす	は申	固界い	ハれ	さそか永
いに	がし	ながま	のを	がれら遠
く、	ば	世あ	す音読	と

て一と彼さ  
い万こはは文  
いやろ福実の  
もむで音は途  
のを話をこ中  
に得を伝うで  
過ぎすえいす  
ぎるるるうが  
な場このと、  
か合とにこ内  
つにに、ろ村  
たお価たにと  
。い値とあい  
でてをえるう  
す一置ばと人  
かのかこ思の  
らみなのをい  
、、かよまば  
あつうすら  
ったな。し  
。

の祭るにな執善をる験究いかと職を聖に  
言司場立どるき置ににしうに、人職ま祭  
を、合つる祭祭き及及、にしむこにでき司  
分詩に祭祭司司たば第教、てべれ紹ある、  
かをお司司、とまなし会わこきま介るも世  
つ作い、、斧ないいてにれの職こし。のに  
祭るてし工をるし。祭入ら聖でと、唯は貴  
司祭はか場ふこそ人司りは職あに人一なむ  
、司、りにるとのはの、必にる慕をのいべ  
、書、働うが地す班教ずつ。う神聖。き  
慰斎万く祭で位べ一職しくそべに職こ職  
籍にや祭司きにてくのもをうくつでれに  
一筆む司、るあ、み課神得し懇れあまし  
いをを、魚。り神、す学んで求行るこて  
し執得店を鋤てがにるをか、一く。とこ  
やるざ頭すを、彼入試研といもの神にれ  
)

章るむし司た言の  
かによそにし者か  
らでうのつかとも  
ですに内いにいし  
す。、村て彼われ  
。ここが語はれな  
れれ、る預、い  
はだ祭こ言祭。  
一け司と者司た  
祭のにはにとと  
司理つはついえ  
と解いないわば  
はとてはてれ、  
何同もだ多た内  
ぞ情、少くこ村  
一をこなをとほ  
と示れい語はい  
いしか。りなつ  
うてらし、いも  
文い読か祭。預

て広うるて伝ない密てもキ  
やく中この道クるがも、リこ  
ま、にと魅者リのあ、そスこ  
な深あが力もスはる本しトに  
いいでにいチ、と当て教、  
の人てき溢るヤそ思のあ徒私  
で間、なれかンのい意えとは  
あ性内いたもはよま味てし内  
りを村よ人しいうすで言て村  
まもはうをれるな。魅うも鑑  
すつ断に、なかも今力な、三  
、て然思私いもの私あらひを  
私違うど。しでどるばと思  
どうのもしれはも人そり想  
も。ではかななににのの家  
を彼すなしいい求し信人と  
惹は。か人、かめて仰間し  
き高そな間立。らいにとて  
つくうかと派立れるおしも  
け、い見しな派て秘いて、

び人てこ人と訣りみへり己を惜をり教とにわ  
とは最とをのを、一か、一愛し知、えがあれ  
もまもが神間知慰をなこおしまりそらでるら  
祭こふでににり籍知しれのたず、のれきもは  
司とさき導立てのりみをれもしそ愛、る、い  
たにわるきち、術、一除、うてので神。善ず  
らそし。ててわをこをくをを与おあのまきれ  
ざのきこ、、れ知れ知の知知えのつ心ず祭の  
る理職れ祭神らりに道、を、もひ恐何たのりい  
を想一ま司を何、よ、を、お同うと怖レな、  
えにわこの人び平り患難、が時にど子のをい  
いす、に職紹も獲同情を  
35ばあとしす、人秘知  
。何る。



( 所 載 )

「

大 一 か  
阪 九 ら  
天 八 し  
下 八 だ  
茶 年 ね  
屋 九 「  
読 月 一  
書 九 八  
会 八 八  
年 秋  
四 八  
号